

雪印カーフミルク・カーフフードを使った

# 乳用雄仔牛の肥育

②

宇都宮市経済部農林指導課

生 沼

薫

四 去 勢

給与した個体があるが、これを除けば平均七三日目から給与を開始している。

給与量については個体差はあるが一〇〇〜五〇〇kgの範囲である。

また試験開始後から九月前期まで、八月前期から九月前期までの一ヶ月の成績は第五、六表のとおりである。

### 三 育成期の成績

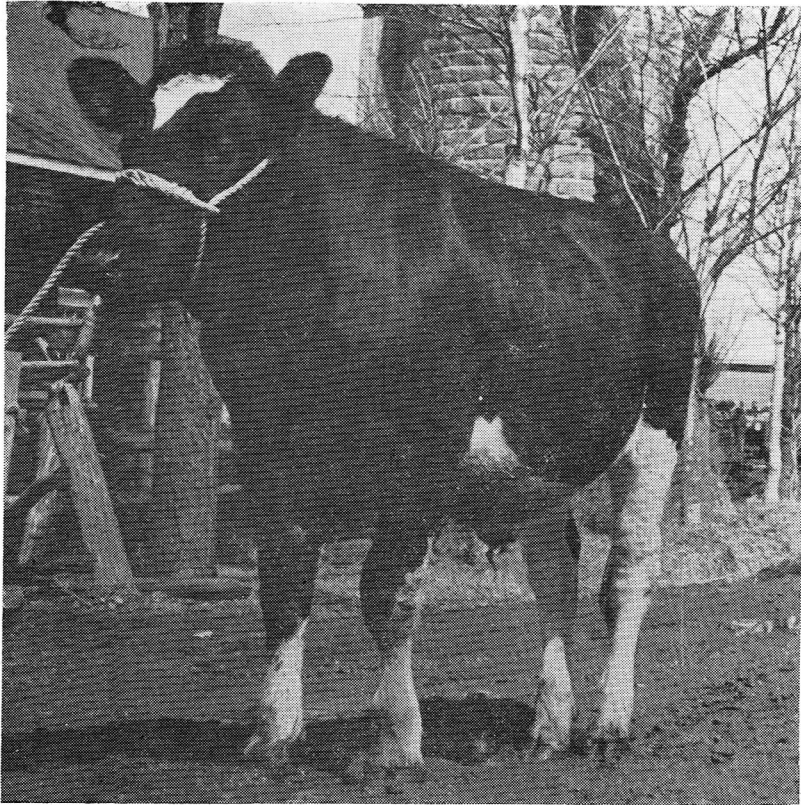
試験開始後、三ヶ月を経過し最も懸念される哺乳期が過ぎ、育成期に入った訳であるが、この時期こそ肥育前期として飼養管理に十分留意する必要がある。

すなわち、一般に危険な時期を過ぎた安堵感から、ここまでくれば絶対ということと飼養管理面に手を抜く傾向がみられるので、この点は注意を要する。

また乳用雄仔牛の肥育には、濃厚飼料本位、運動不要として牛房を狭くするように論じられているが、これはホワイトビールに應用することであり、一〇ヶ月〜一二ヶ月令肥育の場合には、骨作り、腹作りをするのが是非とも必要であり、運動、粗飼料の給与を忘れてはならない。

それ故、今回の試験においては、牛房を広くし牛の自由をそこなわないよう配慮し、給与飼料についても人工乳の給与基準表によるものの外、ひきわり大麦を混給した。給与時期及び給与量については、それぞれ個体により差異があり、生後一四日目で

ホルスタイン雄仔牛の若令肥育、1日1kgの増体は确实



### 五 尿石症の発生と病徴

この病気については、従来一般畜産農家には余り聞きなれない病気でもあり、関心

第七、八、九表を一覧してみると、それぞれ順調な成績を示しているが、中でも増体量については九月〜十一月の間において大部分が一日当り一キgをオーバーし十一月〜一月にかけて若干増体量が鈍化している。これは季節的影響が多分にあるものと考えられるが、他の原因として尿石症の発生に起因することも考えられるので、特に尿石症（尿路結石症）について追記してみたいと思う。

第5表 乳用雄子牛肥育事業中間成績 (9月前期まで)

番号	生年月日	導入後日数	導入後日数	導入後増体量 kg	導入後1日当 たり増体量 kg	飼料費 (濃厚飼料) 円	1日当 たり飼料費 円	飼料要求率
1	41. 5. 5	10	119	82.3	0.691	14,141	119	2.64
2	5. 11	9	114	89.4	0.784	13,124	115	2.44
3	5. 15	11	108	65.0	0.601	10,402	96	3.35
4	5. 19	10	105	59.8	0.569	11,382	108	2.52
5	5. 20	11	109	72.3	0.663	11,331	104	2.11
6	5. 22	10	102	63.0	0.617	15,048	147	4.07
7	5. 10	14	112	71.9	0.641	12,068	108	2.35
8	5. 13	11	112	83.4	0.744	13,753	123	2.65
9	5. 13	11	112	95.2	0.850	14,502	129	2.59
10	5. 8	16	112	73.7	0.658	13,983	125	2.91
11	5. 14	14	108	63.3	0.586	13,959	129	3.41
12	5. 18	10	108	74.3	0.688	14,740	136	3.01
13	5. 13	15	109	69.3	0.634	13,370	122	2.52
14	5. 13	15	109	77.8	0.714	12,318	113	2.28
15	5. 17	11	109	65.5	0.601	12,990	119	3.00
16	5. 13	15	109	75.7	0.694	13,275	121	2.44
平均	均	12	109.8	73.86	0.671	13,149	119.5	

第6表 8月前期~9月前期までの発育(増体量)と飼料費

番号	導入後日数	体 重		増 体 量 kg	1日当 たり増 体量 kg	飼 料 費 円	1日当 たり 飼 料 費 円	飼料要求率
		8 月 前 期 kg	9 月 前 期 kg					
1	119	101.8	124.3	22.5	0.726	3,381	109	3.78
2	114	109.9	131.4	21.5	0.694	3,089	100	3.95
3	108	87.0	108.0	21.0	0.677	2,974	77	2.77
4	105	87.0	107.0	20.0	0.645	2,477	79	2.87
5	109	102.1	121.0	18.9	0.610	2,337	75	3.11
6	102	79.7	103.0	23.3	0.752	6,560	212	6.33
7	112	94.2	121.8	27.6	0.863	3,213	100	3.29
8	112	89.5	127.2	37.7	1.178	4,012	125	2.95
9	112	99.9	137.0	37.1	1.159	4,081	128	3.09
10	112	97.6	123.6	26.0	0.812	4,230	132	4.43
11	108	93.4	113.3	19.9	0.622	3,661	114	4.48
12	108	91.9	117.3	25.4	0.794	4,043	126	4.36
13	109	93.0	116.2	23.2	0.725	2,896	91	2.87
14	109	93.4	122.1	28.7	0.897	3,073	96	2.88
15	109	79.7	108.5	28.8	0.900	4,401	138	3.87
16	109	82.0	119.7	37.7	1.178	3,123	98	2.14
平均	109.8	92.6	118.8	26.2	0.827	3,559	112.5	

第7表 個体別発育の概況

番号	9 月 前 期 (10日~13日)							42 年 1 月 (11日計測)							
	体 重	体 高	胸 囲	管 囲	体 長	生後日数	体 重	体 高	胸 囲	管 囲	体 長	胸 幅	生後日数		
	kg	cm	cm	cm	cm	日	kg	cm	cm	cm	cm	cm	日		
1	124.3	98.0	109.0	13.5	108.0	128	273.0	112.5	143.5	16.5	125.5	36.2	251		
2	131.4	99.0	115.0	13.5	104.0	122	252.0	112.4	144.0	15.5	125.2	29.8	245		
3	108.0	96.0	104.0	14.0	101.0	118	228.0	113.2	138.5	15.6	120.0	31.0	241		
4	107.0	93.0	108.5	13.0	98.5	114	240.0	110.4	139.0	15.5	120.2	35.5	237		
5	121.0	97.0	107.0	13.0	98.5	113	248.0	113.8	143.0	15.9	126.4	31.8	236		
6	103.0	93.5	99.0	13.0	97.0	111	190.0	108.4	128.5	14.8	112.0	30.5	234		
7	121.8	92.0	108.5	13.0	101.0	115	240.0	106.3	139.5	15.6	118.6	34.0	247		
8	127.2	96.5	111.0	13.0	97.0	112	251.0	107.8	141.0	15.0	121.0	31.0	244		
9	137.0	101.0	115.0	13.7	100.0	112	263.0	115.0	149.5	15.7	120.0	36.8	244		
10	123.6	95.0	111.0	13.1	98.0	117	236.0	112.9	139.0	15.0	121.8	28.8	249		
11	113.3	95.5	109.5	13.0	98.5	111	251.0	108.6	140.5	15.5	127.0	35.2	243		
12	117.3	93.5	109.8	13.6	98.5	117	250.0	106.2	140.0	16.0	123.0	35.2	239		
13	116.2	93.5	108.5	13.5	95.0	123	240.0	114.8	143.0	15.6	124.8	33.2	244		
14	122.1	90.0	108.0	13.5	93.0	123	235.0	111.8	137.0	15.8	118.2	30.8	244		
15	108.5	93.5	98.0	13.0	100.0	119	249.0	114.3	139.0	15.6	125.1	35.8	240		
16	119.7	94.0	107.5	13.5	95.0	123	238.0	111.8	139.5	15.5	119.2	33.0	244		

第8表 増体量及び飼料費

番号	生年月日	導入後日数	導入後増体量	1日当たり増体	飼料費合計	1日当たり飼料
		日	kg	g	円	円
1	41. 5. 5	241	231.0	959	24,811	103
2	5. 11	236	210.0	890	29,917	127
3	5. 15	230	185.0	804	29,926	130
4	5. 19	227	192.8	849	23,256	102
5	5. 20	225	199.3	886	31,191	139
6	5. 22	224	150.0	670	28,173	126
7	5. 10	233	190.1	816	28,078	121
8	5. 13	233	207.2	899	28,895	124
9	5. 13	233	220.2	945	32,503	138
10	5. 8	233	186.1	799	30,231	130
11	5. 14	229	200.0	873	21,857	95
12	5. 18	229	207.0	904	25,117	110
12	5. 13	231	193.5	838	26,050	113
14	5. 13	231	190.7	826	24,270	105
15	5. 17	231	206.0	892	28,774	125
16	5. 13	231	194.0	840	24,996	108

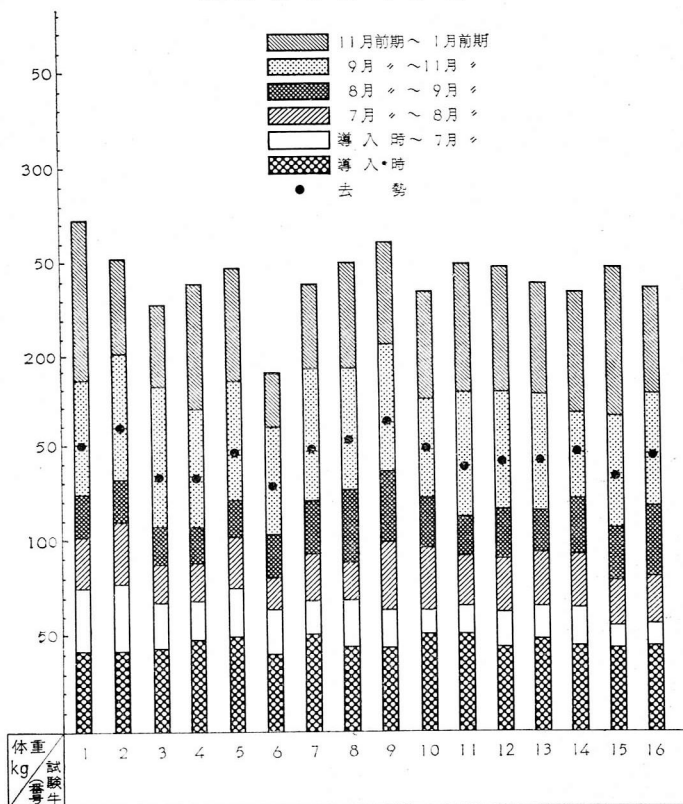
が薄かったが月二回実施する検査において  
 本病を発見し治療に当たったが、その後試  
 験牛中に続発、現在までに本病に罹病しな  
 い牛は三頭のみである。  
 すなわち初発は九月二十八日で一四号牛  
 が発病し、一六号・一号・五号の順に発病、

三号・四号・一五号牛の三頭のみ徴候はみ  
 られなかった。  
 症状は急激なものはなく、わずかに、食  
 欲減退、陰毛部に白色の結石が附着、排尿  
 時に疼痛のため、腹部を蹴るか、排尿前、  
 しきりに尾を振る。

第9表 9月前期～11月前期・11月前期～42年1月前期個体別増体量

番号	体 重		増 体 量 kg	1日当たり 増 体 量 g	体 重		増 体 量 kg	1日当たり 増 体 量 g
	9 月 前 期	11 月 前 期			11 月 前 期	1 月 前 期		
	kg	kg			kg	kg		
1	124.3	204.0	78.7	1,312	204.0	273.0	69.0	1,150
2	131.4	196.0	64.6	1,077	196.0	252.0	58.0	967
3	108.0	175.5	67.5	1,125	175.5	228.0	52.5	875
4	107.0	179.0	72.0	1,200	179.0	240.0	61.0	1,017
5	121.0	185.0	68.0	1,133	185.0	248.0	59.0	983
6	103.0	162.5	59.5	992	162.5	190.0	27.5	458
7	121.8	192.0	70.2	1,190	192.0	240.0	48.0	800
8	127.2	192.0	64.8	1,098	192.0	251.0	59.0	983
9	137.0	208.5	71.5	1,211	208.5	263.0	54.5	908
10	123.6	176.0	52.4	888	176.0	236.0	60.0	1,000
11	113.3	180.0	66.7	1,131	180.0	251.0	71.0	1,183
12	117.3	180.0	62.7	1,063	180.0	250.0	70.0	1,167
13	116.2	178.0	61.8	1,047	178.0	240.0	62.0	1,051
14	122.1	168.0	45.9	778	168.0	235.0	67.0	1,135
15	108.5	177.0	68.5	1,161	177.0	249.0	72.0	1,220
16	119.7	179.0	58.3	988	179.0	238.0	69.0	1,169

第1図 個 体 別 増 体 図



### 六 予防及び治療法

カルシウム代謝をはかるため、畜舎の採光を図ると共に、日光浴を努めて実施する。薬品としては、塩化アンモン日量三瓩を一〇日～二〇日間連続投与する。

治療はビタミンA・Dの投与と強肝剤を併用し、ほとんどが好転あるいは治療の転帰をとっている。

### 七 肥育上の諸問題と対策

以上は試験対象牛のみの試験例であるが、他牛においては食欲不振の症状を極め

て顕著に示し、また長い経路をとっているものも数多く見受けている。

このような点から月二回の検査が大いに役立ったものと考え、早期発見と治療の重要性を如実に示している。

今後乳用雌仔牛を肥育する上、牛舎内温度(特に寒さ)に注意することが重要である。

最後に当初事業実施要領で示した目標生体重の四〇〇kgとするため五月中旬を出荷時期とし、この時期において肉質、歩留り等細部調査を実施する予定である。